

定住自立圏構想
中心市宣言書

愛知県刈谷市

中心市宣言

刈谷市は、愛知県のほぼ中央に位置し、衣浦湾に至る西三河平野の西部、衣浦湾頭に位置しています。

古くは、天文2年（1533年）に水野氏が刈谷城を築き都市としての形態をとり始めたのをきっかけに、江戸時代の刈谷藩の成立により城下町として発展してきました。その後、明治21年に東海道本線が開通し、刈谷駅が設置され、大正3年には三河鉄道（現名鉄三河線）が開通するなど、交通の要衝として発展、地方商業都市的色彩を濃くしてきました。大正末期にはトヨタ系企業の誘致により近代産業都市としての足がかりを得るとともに、積極的な工業化施策を推進してきました。戦後の高度経済成長やモータリゼーションの進展と相まって、自動車関連産業の集積地として飛躍的な発展を遂げてきました。

現在、本市は、全国屈指のものづくり産業の拠点都市として、トヨタ系企業への通勤者をはじめ周辺市町から多くの人々が流入しています。また、トヨタ系企業の工場は周辺市町にも立地し、広域的な人の流れを創出しており、生活圏は広域に渡り、さまざまな面で密接な関係を有しています。これまで強固な産業基盤に支えられ、住民生活に必要な生活機能をはじめ、福祉・教育・都市基盤などの施策の充実に努め、働くまちと住むまちとの共生を積極的に進め、都市的機能の集積を図ってきました。

しかしながら、日本の総人口は急速に減少し、地方圏のみならず三大都市圏においても人口が減少していくと見込まれる厳しい情勢にあります。本市をはじめとする周辺地域は、堅調な産業基盤に支えられ、今後も人口が増加傾向で推移すると想定されますが、将来にわたり持続可能なまちづくりを進めるためには、基礎的自治体である市町村が協力して、住民の生活に必要な機能を確保していくことが求められる時代を迎えています。

これまで本市をはじめ周辺市町は、安定した財政基盤に支えられ、それぞれの自治体の個性を生かし、お互いに切磋琢磨しながら、独自の施策を展開し、住民にとって住みやすいまちづくりを進めてきました。

今後も、地方分権が進展する中、住民の一番身近な基礎的自治体である市町村が、地域の特性を活かし、住民のニーズへの対応や社会的課題の解決を図っていく必要性が高まる一方で、それぞれの市町村が持つ資源を生かし、密接に連携していくことが大切であります。

このような状況を踏まえ、刈谷市は、圏域の中心都市としての自覚を持ち、住民生活において密接な関係を持つ市町と連携することにより、圏域全体の安心感や利便性の向上、圏域全体のつながりを強め、郷土への魅力や誇りを創出し、豊かに暮らすことができる地域づくりに努めていきます。

平成 22 年 4 月 1 日

刈谷市長 竹 中 良 則

1 刈谷市の都市機能の集積状況及び利用状況等

刈谷市は、本市住民のみならず近隣市町の住民にも広く利用される医療施設、教育施設、文化施設などを備えています。一方で、周辺市町においても、旧来から同一の経済圏、生活圏としてのつながりが強いこともあり、商業施設などは周辺市町にも立地し、圏域全体として、多様な拠点機能を有しています。

本市における特質的な都市機能の集積状況としては、以下のようなものが挙げられます。

医療面では、刈谷豊田総合病院を有し、圏域の中核医療機関としての役割を担っています。近年、病棟や手術棟の新築なども進められ、最先端の高度医療に対応できるような施設の充実が図られています。

産業面では、大手企業の本社や主力工場があり、周辺市町から多くの人が入り込んでいます。また、多くのビジネスマンが訪れることから、刈谷駅周辺には宿泊施設が整っており、周辺には数多くの飲食店も立地しています。また、伊勢湾岸自動車道刈谷PAと一体になった刈谷ハイウェイオアシスは、商業施設や観光施設などが整備され、高速道路利用者だけではなく、一般道路も含め年間800万人以上の人が入り込んでいます。

教育面では、市内に5つの高校と1つの大学を有しています。愛知教育大学は、県下唯一の教員養成系の大学として、数多くの教職員を輩出し、愛知県の教育力の向上に重要な役割を果たしています。また、刈谷高校をはじめとする5つの高校には、周辺市町からも多くの学生が通学しています。

公共交通においては、JR東海道本線、名鉄名古屋本線及び三河線が通り、JR4駅・名鉄5駅を有し、圏域住民の駅として利用されています。また、国道1号、23号（名豊道路）、155号が東西に伸び、国道419号（衣浦豊田道路）が南北に走り、交通結節点として交通・物流の要所ともなっています。

文化施設としては、図書館や美術館を有し、広く圏域住民にも利用されており、新たに刈谷駅南口駅前には、圏域最大の収容人数を誇るホールを備えた総合文化センターが開館します。

このように、本市には一定の都市機能を有しており、地域の拠点としての役割を果たしています。

主な都市機能の集積状況は、以下のとおりです。

(1)医療機関等

刈谷市には、中核医療機関や休日診療所があり、周辺住民の健康的な暮らしを支えています。

○刈谷豊田総合病院の概要

	病床数	診療科
刈谷豊田総合病院（本院）	一般病床 621 床	19 科目 内科、精神科、神経内科、循環器科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、耳鼻咽喉科、眼科、放射線科、麻酔科、リハビリテーション科、歯科、歯科口腔外科
刈谷豊田総合病院東分院	療養病床 230 床	3 科目 内科、リハビリテーション科、脳神経外科
刈谷豊田総合病院高浜分院	療養病床 104 床	4 科目 内科、外科、整形外科、眼科
介護老人保健施設ハビリスーツ木	入所定員 140 床 通所定員 120 名	-----

※資料；刈谷豊田総合病院

○刈谷豊田総合病院（本院）の利用状況（平成20年度）

区分	利用者数 (人)	地域別利用割合				
		刈谷市	知立市	高浜市	東浦町	その他
外来	552,059	45.37%	10.79%	7.71%	8.73%	27.40%
入院	226,111	44.33%	10.08%	10.18%	8.70%	26.71%

※資料；刈谷豊田総合病院

○刈谷豊田総合病院（本院）への救急搬送の状況（平成20年度）

救急搬送数	刈谷市	知立市	高浜市	東浦町	その他
8,531 人	3,633 人	1,558 人	698 人	821 人	1,821 人

※資料；刈谷豊田総合病院

○刈谷医師会休日診療所の利用状況（平成20年度）

利用者数	刈谷市	知立市	高浜市	東浦町	その他
2,845 人	2,168 人	340 人	33 人	42 人	262 人

※資料；刈谷医師会

(2) 産業

大手企業の本社や主力工場をはじめ、多くの事業所が立地し、周辺市町から多くの人が入り込んでいます。また、刈谷駅周辺には宿泊施設が集まっています。

○事業所数（平成18年度）

区分 (従業員数)	事業所数	従業員数
100～199人	24	3,276
200～299人	6	1,396
300～499人	6	2,333
500～999人	5	3,049
1,000人～	7	32,719

※資料；工業統計調査

○宿泊施設等

刈谷市には、刈谷駅周辺を中心に、ビジネスホテルが立地しています。

(平成21年6月現在)

宿泊施設数	客室数	宿泊定員数
10	約780室	約950人

※資料；商工課（客室数及び定員はホテルHP等を参照）

○大規模小売店舗の状況（店舗面積5,000㎡以上）

名 称	面 積
アピタ刈谷店	21,372㎡
ロックSタウン刈谷	19,571㎡
エルシティ	10,281㎡
みなくるSC	6,750㎡
タキソウパルクス刈谷店	6,175㎡
ピアゴ井ヶ谷店	5,752㎡
ピアゴ東刈谷店	5,700㎡

※資料；商工課

(3) 教育施設

刈谷市には、5つの高校と1つの大学があり、周辺市町から学生が通学しています。

○高等学校の状況

(平成21年5月1日現在)

学 校 名	課 程 ・ 学 科	生 徒 数
刈谷高等学校	(全)普通	1,082人
刈谷北高等学校	(全)普通	958人
刈谷工業高等学校	(全)機械・自動車・電気	794人
愛知教育大学附属高等学校	(全)普通	567人
刈谷東高等学校	(定夜)機械、(定昼)普通 (通)普通	(定) 578人 (通)1,232人

※資料；愛知県教育委員会HP

○大学の状況

(平成21年5月1日現在)

学 校 名	学 生 数				職 員 数
	大 学	専攻科等	大 学 院	合 計	
愛知教育大学	3,900人	62人	340人	4,302人	398人

※資料；愛知教育大学HP

(外国人留学生は除く)

(4) 公共交通

刈谷市にあるJR及び名鉄駅は、通勤・通学のために周辺住民にも利用されています。特に、JR刈谷駅は通勤・通学のために多くの人々が利用しています。

○市内鉄道駅の乗降人員の状況 (平成20年度)

		年間(千人)	(内)定期利用者(千人)	1日平均
J R	刈谷駅	20,656	(14,980)	56,591人
	東刈谷駅	3,984	(2,968)	10,915人
	逢妻駅	1,450	(1,006)	3,972人
	野田新町駅	1,050	(724)	2,876人
名 鉄	刈谷駅	7,639	(5,298)	20,928人
	刈谷市駅	1,860	(1,406)	5,095人
	小垣江駅	904	(605)	2,476人
	富士松駅	945	(588)	2,589人
	一ツ木駅	894	(517)	2,449人

※資料；かりやの統計他(※JRは乗車人員のため2倍し乗降人員としている。)

(5)文化施設

○ホール及びコンベンション施設の状況

施設名	収容人数	備考
刈谷市総合文化センター 大ホール	1,541 席	H22.4.3 開館
刈谷市総合文化センター 小ホール	282 席	H22.4.3 開館
刈谷市産業振興センター あいおいホール	758 席	
刈谷市産業振興センター 小ホール	300 席	
刈谷市北部生涯学習センター メインホール	502 席	
刈谷市中央図書館 大会議室	208 席	

○図書館の利用状況 (平成19年度)

利用者数	刈谷市	知立市	高浜市	東浦町	その他
193,755 人	170,034 人	9,969 人	2,371 人	493 人	10,888 人

※衣浦東部圏域(碧南市、安城市、知立市、高浜市)以外の住民は、在勤者のみ利用(貸出)可能

※資料 刈谷市中央図書館広域利用統計年報

2 刈谷市と周辺市町との連携が想定される取組み

圏域に生活する住民が、生活の安心感や利便性の向上や、圏域全体のつながりを強めながら、郷土への魅力や誇りを創出し、豊かに暮らすことができる地域づくりため、連携を想定する取組みは、次のとおりです。

(1)生活機能の強化に関する分野

①医療関係

- ・ 圏域の中核医療機関である刈谷豊田総合病院を中心とした地域医療ネットワーク等の形成に関する支援

②観光関係

- ・ 共通の観光資源等を活用した観光PRやイベントの開催及び連携
- ・ 新たな観光ルートの開拓と広域観光ネットワークの形成のための連携

③教育関係

- ・ 合同音楽祭等の児童生徒の交流事業等の開催
- ・ 大学との連携による公開講座等の開催及び連携

④その他

- ・ 教育、文化、スポーツ施設等の公共施設の相互利用の推進

(2)結びつきやネットワークの強化に関する分野

①地域公共交通関係

- ・ 各市町の行政連絡バスの接続による広域交通網の形成や中心市への乗入等に関する連携
- ・ 中部国際空港へのアクセス確保に関する連携

②その他

- ・ 刈谷ハイウェイオアシスを活用した地元特産品や各市町のPR等の共同情報発信事業の実施
- ・ 広域幹線道路等の整備に関する連携

(3)圏域マネジメント能力の強化に関する分野

- ・ 地方分権に対応できる職員を育成するための合同研修会の開催
- ・ 刈谷市民ボランティア活動支援センターの活用による市民活動団体やNPO等のネットワークの形成に関する連携

3 刈谷市への通勤通学割合 10%以上の市町の名称

本市への通勤通学割合が10%以上ある市町は、次のとおりです。

	通勤通学割合
知立市	17.9%
高浜市	13.3%
東浦町	10.2%

※平成17年国勢調査